

## 2021年度 第1回 宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会

### 【第1部】講師 東北医科薬科大学病院 藤盛寿一先生へのご質問とご回答

2022.1.27

#### ≪福祉関係者から≫

Q1. 就労移行のホープガーデン気仙沼と申します。利用者さんが職場実習や就職した時等、企業は障害のことをどのように伝えるのが、本人にとっても企業にとっても良いのでしょうか。

A1. 業務を行う上で、出来ることと、出来ないこと（困難なこと、配慮を要すること）などを伝える必要があると思います。特性や職務能力を本人合意のもと、職場や実習先に事前に周知し、十分理解してもらおう事が大切だと思います。

Q2. 就労移行支援事業所に勤務している者です。就労支援機関と医療機関の情報共有について質問です。ご利用者様の就労訓練状況についてお伝えして欲しいことなどはございますでしょうか。また、お忙しい医師の方が多いので、情報の提供の仕方や、カンファの時間の取り方など、どのように配慮しながら協力して支援を行っていったら良いか、ご意見を聞かせていただきたいです。

A2. 当院では必要に応じて、外部機関とのカンファレンスを積極的に実施しております。医療機関の検査では知り得ない、現場での情報（支援者側の気づき等）を伺えると助かります。情報提供は、紙面での場合もありますが、時間の許す限り、日程調整をした上で対面でのカンファレンスを開催した方が細かいニュアンスが伝わり易いと思っています。しかしながらコロナ禍では面会制限もありますので、代替手段を考えざるを得ず、工夫が必要だと感じています。専門的立場の機関の方々と今後も連携させていただければ幸いです。

#### ≪医療関係者から≫

Q3. 高次脳機能障害のある方の支援を行おうと思ったきっかけは何ですか。

A3. 支援により社会復帰できた患者さん達の御様子を見る事ができたのが、きっかけの一つです。

《当事者の方から》

Q1. 交通事故の頭部外傷により"てんかん患者"となった私ですが、付き合っていくことに不安や恐怖がありました。今となっては薬で落ち着いております。おそらく山本様も何かしらの心境の変化がおありかと勝手ながら思っております。そのモチベーションのありかたや、私生活での何か工夫などありましたら教えて戴ければと思います。

A1. 交通事故に遭い障害（後遺症）が残ると、今までのように暮らせなくなること・以前の自分と比べてしまうことが本人にしかわからない苦しみだと思います。その苦しみを家族に相談しても家族を悩ませて苦しめるだけだったかもしれないということ、最近わかってきました。色々な生きづらさを行政に相談しても「使おうとしているサービスは精神手帳だから無理です」と言われたり、障害者支援センターにも「他の利用者に比べれば障害が軽いしヤル気の問題だよ」と相手にされなかったときには、ヤル気がなくなりました。家族会、当事者会、医療関係者など、障害を理解していただける方々に共感してもらい「応援しているから頑張ってね」と言われることで、私は「もっと頑張らなきゃな」と思えるようになれました。仕事にやりがいを感じ頑張るのも方法の1つ！応援してくれる人のために頑張るのも方法の1つ！そしてなにより、自分が人生を楽しみたいから頑張っています。

Q2. 当事者で就労されたということで、とても大変だと思います。私も当事者で、某大手小売業に就職しましたが、採用担当の方がわかっているだけで、実際に指示を出す人は何もわかっていない状態で嫌になりました。職に着く前にどこか就労支援施設などを使ったのでしょうか？私の経験上、就労支援施設などを使わないと大変だと思います。

A2. アドバイスありがとうございます。実は私は、いくつかの就労支援事業所に通ってきました。高次脳機能障害であることより、交付された手帳が精神保健福祉手帳であることが苦しかったです。言い方が悪いですが、事業所の職員にも当たりハズレがあると思います。その人が住む地域で高次脳機能障害（精神保健福祉手帳）でもできる範囲の支援をされる方、精神保健福祉手帳でより良い就労支援を受けるためにと県外の施設を勧めてくれる方、他の地域でやっている取り組みを宮城県でもやろうよと行政に掛け合ってくれる方、など色々な方がいらっしゃいました。  
就職して、就労支援施設と疎遠になってしまい相談できるところがなくなる…  
今はその状態で企業も私も少し困っています。

Q3. パチンコは未だ続けていらっしゃるのでしょうか？  
パチンコについて、どう思われますか？

A3. パチンコは、初めて行ったときに勝てましたが、気づくと大変な金額負けています。しかしパチンコ関連の話で従業員と仲良くなれた職場もあります。今の職場は近所なので、お客様に会ってしまうと企業の名誉を汚すことになりかねないので、パチンコに行く機会は以前より大幅に減りました。お金が増えるかもしれないと通い続けていましたが、疲れて明日の業務に影響が出てしまっただけは困るということもあり、平日は行かなくなりました。パチンコはあくまでも娯楽で、のめり込み注意です。

#### 《当事者家族の方から》

Q4. 山本さんの場合で構いません。就職する前、働く心構えや準備について、どんなことを頑張りましたか。そして、実際働いてみて、ここをもっと深めたい(ここに注意を払って働いている)事がありましたら、教えてください。

A4. 福祉事業所の就労支援やハローワークの就労準備セミナー講座、若年者のための就労支援など、“就労支援”の名前がついているものには積極的に参加してきました。しかし就労支援事業の中で求職活動していて、ハローワークの窓口で求人を探さなかったことがなかなか仕事を見つけられなかった原因かもしれません。

Q5. 職場での対人関係などのご苦労などありましたでしょうか。親の押し付けでは無く、自分から出向く気持ちになるようなキーポイントとなる声かけがありましたら、教えてください。

A5. どの職場でも障害(症状)を理解してくれる人もいれば、「やる気がないだけ」と理解してくれない人はいると思います。それでも頑張る姿を応援してくれる人はいるはずですよ！また、ミスが障害のせいにならないこととミスをしたら素直に「すみませんでした」と謝れることが大切だと思います。障害のことを企業に理解してもらうためにも、ぜひ「就労移行支援」を活用して欲しいです。第三者によるアドバイスが効果的だと私は思いました。親子で相談に行ってみることをアドバイスとさせていただきます。また、障害年金や福祉サービスの利用も相談されてはいかがでしょうか？

#### 《医療関係者の方から》

Q6. 仕事をしたい、続けたいと思ったきっかけは何かありますか？

A6. 自分は「障害があるから働けない」とばかり言っていましたが、知り合う人や同級生とあったときに“無職”というのが恥ずかしくなり、ハローワークで求職活動を始めました。また、応援してくれる人を喜ばせたく、人と関わるのが少ない仕事ばかり探していた自分ですが、そんなのどうでもいいやと思いつつ、何でもいいから働いてみようと思えたことも動機になったと思います。職場でコミュニケーションがとれない日が続くとやめたいと思ってしまいますが、自分を頼りにしてくれる人がいることを思い出し頑張っています！

Q7. 仕事復帰にあたり、特に役に立った支援は何ですか。

A7. 受傷時は高校生だったもので、職場復帰という言葉を使うことが正しいのかはわかりませんが、私が社会参加にあたり役に立ったと感じている支援（関わり）を書かせていただきます。

各事業所で色々な作業があります。他の利用者とコミュニケーションをとりながら共同作業で何かを作成することや、ひとりで作品を制作するときもあります。講師の方のお話を聴く時間もありました。「メモととるので少し待ってください」などと断り、メモを“しながら”話を聴いたり、進捗報告をメモ“しながら”作業に取り掛かるなど、緊張感をもって事業所を利用していました。そうだったので、おしゃべりが多い利用者がいたり休憩時間が多いような事業所は、気負いすぎてうまく利用できていませんでした。そういう訳なので、役に立つ支援とは、その人がどんな目的で事業所を利用しているか、なのかもしれません。

それとは別に、就労移行支援事業所の方が私と雇用主との間に入って来て話し合いの場を設けてくれたことが職場定着につながっていると私は思っています。

Q8. 今回は貴重なお話ありがとうございます。現在、書店勤務とのことですが、就労が決まるまでに苦労したことや、現在、周りの同僚とのやりとりで工夫しているところなどあれば教えていただきたいです。

A8. 受傷して20年になりますが、障害者合同面接会や行政に相談をした際に「精神障害だから無理だね」と言われたことや支援者に「やる気の問題」と言われ続けたことは、とても辛かったです。「なんでできないの?」と聞かれても、「障害があるので難しい」などと言わないことが頑張っていることかもしれません。また、ミスをした際には「失礼しました」「申し訳ありません」と自分の非を認めることが大事だと思っています。口頭でのコミュニケーションが難しい私が工夫しているところは、作業報告などを紙に書いて行っていることです。そうすることで時間が少しかかってしまいましたが、伝達ミスを減らしています。それと作業指示をもらう際、同僚には難しい表現を使わずに簡単な表現で指示を出してもらっています。

Q9. 医療者との関わりで、具体的な支援や関わりで一番助かったこと、またこういう支援をしてもらえたらよかった、ということはあるですか?

A9. 入院中、「今朝のご飯は何食べたか覚えてる?」「担当看護師の私の名前おぼえた?」などの些細な会話も“症状の自覚”を促すキッカケになっていたのかもしれないと振り返ってみて思い出せました。また、今後どうしたら働けるのか分からなかったときにソーシャルワーカーさんに色々な機関を紹介していただいたのは嬉しかったです。

≪福祉関係者より≫

Q10. 就労移行のホープガーデン気仙沼と申します。利用者さんが職場実習や就職した時等、企業は障害のことをどのように伝えるのが、本人にとっても企業にとっても良いのでしょうか。

A10. 通所期間中に色々な体験をし、どのように関われば本人は指示を理解できるのか、作業をしやすいのかなどの“評価”が大事になるかなと感じました。就職の際は、数週間ほど実習期間を設けてもらい本人の“評価”を活用すればより職場定着しやすいかもしれないですね。就労支援事業所に間に入ってもらった今の職場では、当日する作業を紙に箇条書きしてもらい優先順位もつけてもらうなどの配慮をいただき私は労働力になれていると思います。また、高次脳機能障害の代表的な症状（注意・記憶・遂行機能）を伝えるだけではないと思います。大切なのはあくまでも本人の症状？特徴？の、“評価”だと思います。そして、どのように関わればミスが減り“できる”ようになるのか考える、本人と職場と事業所で、“できる・できない”、を話し合う三者面談のようなものも大事になってくると思います。

Q11. 1. 就労する上で大変だったことは何ですか。どのように乗り越えてこられましたか。  
2. 就労準備期間に就労移行支援事業所は利用されましたか。

されていた場合、支援員の関わり方で

- ① こういう関わり方は嬉しかった。
- ② こういう関わり方は迷惑だった。
- ③ もし就労準備をやり直すとしたら、こういう支援をして欲しい。  
などのご意見があれば教えて下さい。

A11. 1. 障害者合同面接会や行政に相談をした際に「精神障害だから無理だね」と言われ続けたことは、とても辛かったです。震災後に「地域を盛り上げよう」とボランティア活動し地域の方や仲間に色々な言葉をかけてもらい、頑張る気持ちになりました。

2. 移行支援事業所は利用しました。

- ① 事業所の利用をやめたいと言ったとき、その理由と今後の就職活動をどうするかなどを話し合う時間を設けてくれた関わり方が嬉しかったです。
- ② 他の利用者とは比べられることは嫌でした。「がんばれ」といわれることも苦手でした。事業所に利用をやめたいと言ったら、来ないでいいよと言われたことも辛かったです。
- ③ もし、就労準備をやり直せるなら、私は自分がやりやすいように作業環境を勝手に変えてしまっています。今はむしろ雇用主が困っているような気がするので、雇用主が相談できる体制を準備すべきだったと思っています。